

小平市 人口推計報告書

(平成27年国勢調査による)

抜粋

平成29年2月



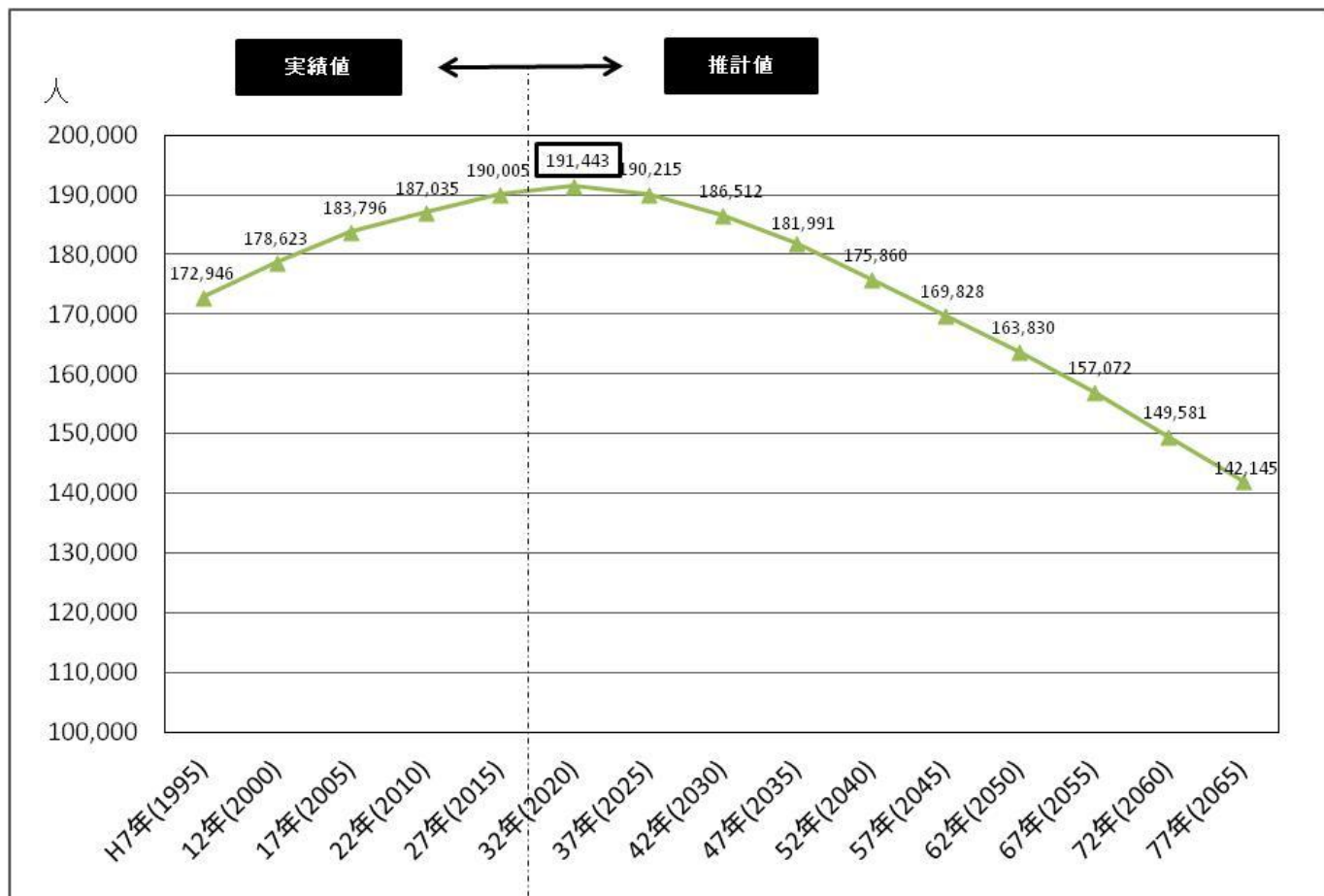
小平市

第5章 推計結果

これまでの基礎数値等設定による人口推計結果は以下のとおりとなった。

1 将来人口

図表 5-1:小平市人口推計（平成 22(2010) 年⇒平成 27(2015) 年、詳細 P. 42)

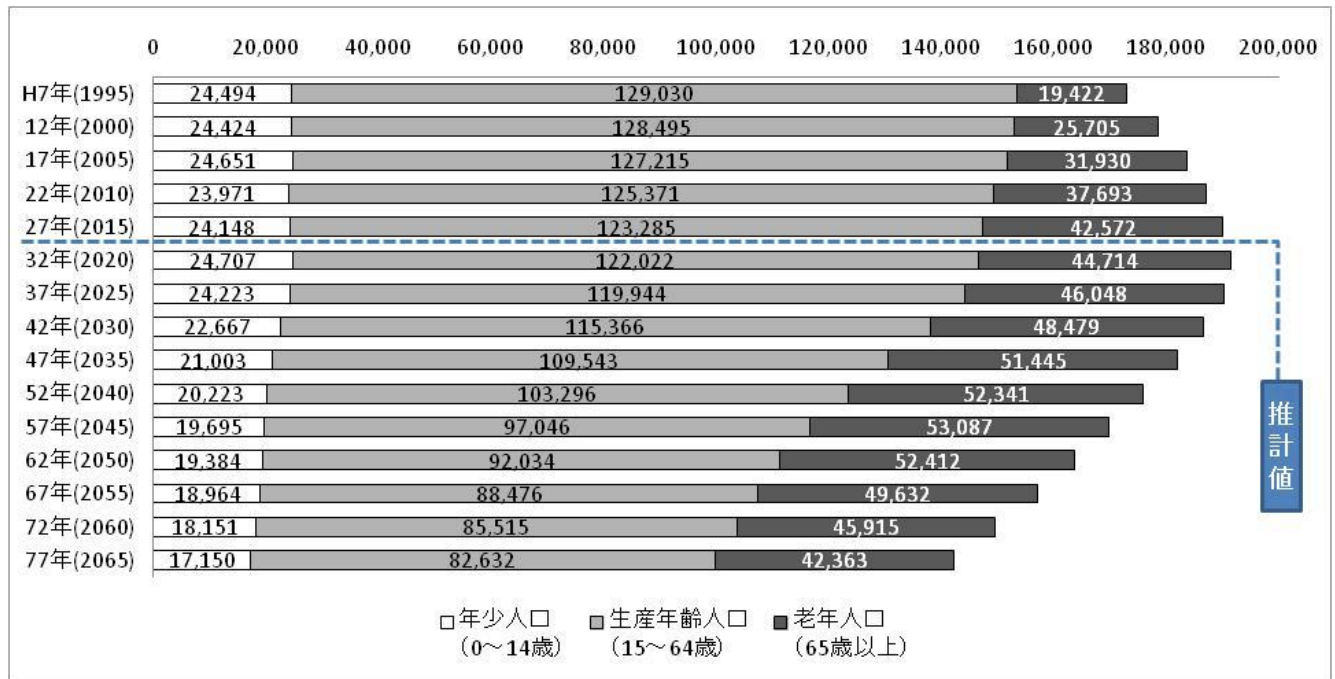


小平市の人口の推移は昭和 50(1975)年から昭和 55(1980)年にかけて一度減少したものの、その後も増加傾向は続き、現在もなお微増傾向である。

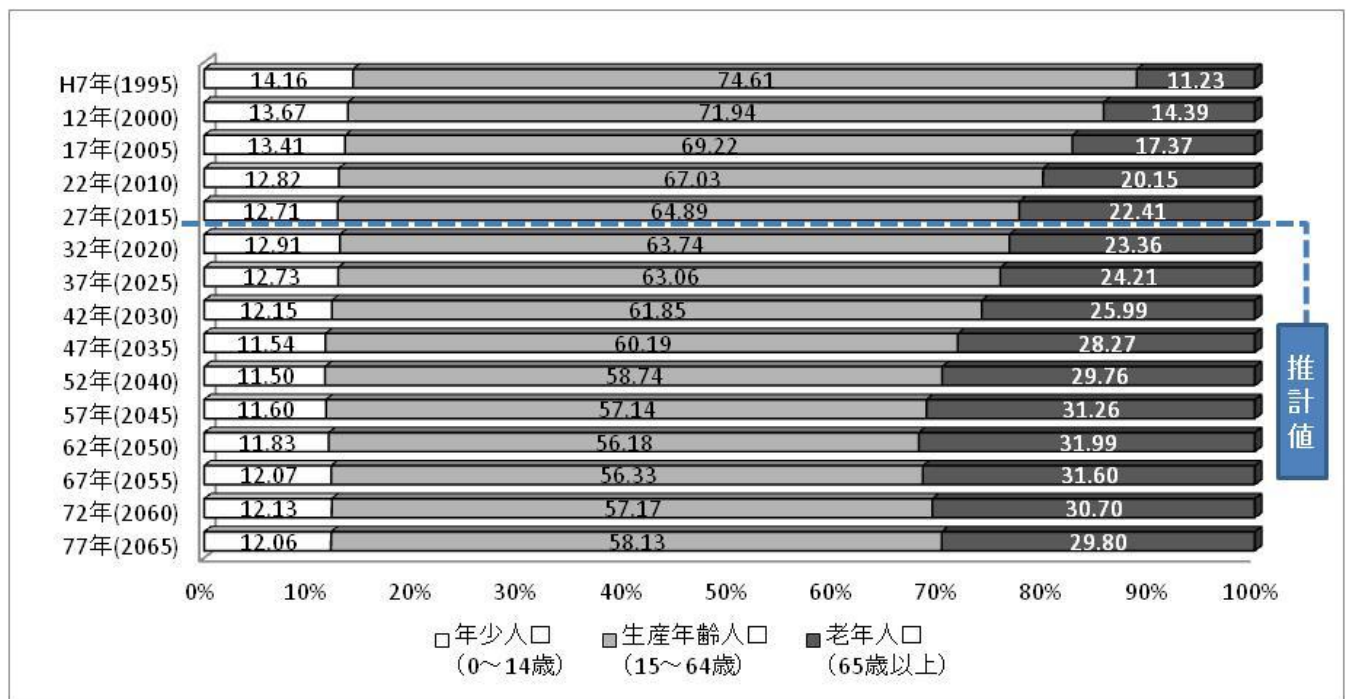
この傾向は平成 32(2020)年まで続き、基準年である平成 27(2015)年より約 1,500 人多い 191,443 人でピークを迎える。その後は本市においても人口減少へと転じ、50 年後の平成 77(2065)年では推計人口 142,145 人、平成 27(2015)年よりも約 48,000 人減少する。

3 年齢3区分別人口

図表 5-3: 年齢3区分別人口の推移 (詳細 P. 43)



図表 5-4: 年齢3区分別人口割合の推移 (詳細 P. 43)



(1) 年少人口（0～14 歳）

平成 32(2020)年までは住宅環境の整備により微増傾向が続くが、その後は減少し、50 年後の平成 77(2065)年には約 7,000 人減少する。

年少人口割合についても平成 32(2020)年までは微増し、その後緩やかに減少し 12%前後を推移する。

(2) 生産年齢人口（15～64 歳）

生産年齢人口は平成 7(1995)年の 129,030 人をピークに減少の一途をたどり、平成 77(2065)年には約 40,000 人減少する。

生産年齢人口割合についても減少傾向が続くが、将来的には老年人口割合が減になることに伴い、平成 62(2050)年の 56.18%を底に生産年齢人口割合は微増する。

(3) 老年人口（65 歳以上）

老年人口は年々増加するが、平成 57(2055)年 53,087 人をさかいに減少し、平成 77(2065)年には平成 57(2045)年より約 11,000 人減少する。

老年人口割合は平成 42（2030）年には 25%を超え 25.99%となり、4 人に 1 人が 65 歳以上となる。35 年後（2050 年）の平成 62(2050)年でピークを迎え、31.99%を占める。65 歳以上の老年者 1 人を 1.76 人の働き手で支える人口構造となる。

4 前推計結果との相違点

(1) 総人口のピーク年が平成 27(2015)年から平成 32(2020)年へ 5 年後ろ倒し

(2) 人口減幅の縮小

いずれも要因は大規模新築住宅への多くのファミリー層の流入、またその世代が出産適齢期を控えていることにより、人口減少のはじまりがやや遅れている。

5 考察

以上、推計結果より小平市の人口の微増傾向はしばらく続き、平成 32（2020）年をピークに減少、平成 77（2065）年には約 48,000 人減の 142,145 人となる。

平成 27 年国勢調査において調査開始以来初の人口減となった日本総人口だが、この状況は遅ればせながら小平市においても始まる。その始期が前回推計より先のばしになっているのは住宅環境に恵まれ、比較的若い世代の流入が人口減への転換を遅らせている要因としてあげられる。

一方老年人口の増加は、団塊世代・団塊ジュニア世代が寿命を迎えるまで、人口構造に影響を与え続け、その後は減に転じることから、老年人口割合の増え続ける今後 30～40 年は、効率のよい行政運営が最も求められる期間になると予測される。